(公財)いわき市教育文化事業団シンボルマーク

文化財ニュース いわき

第 80 号
令和 2 年 5 月 21 日
(公財)いわき市教育文化事業団
福島県いわき市常磐藤原町手這50-1
(いわき市考古資料館内)
TEL 0246 (68) 6775

令和元年度発掘速報展

【開催期間　令和２年５月21日（木）～７月12日（日）】

いわき市では、旧石器時代から江戸時代までの埋蔵文化財包蔵地が1,480か所以上確認されています。これらの埋蔵文化財は、可能な限り現状のままで保存を図り、次世代へと引き継ぐことが大切ですが、開発行為などによりそのことが困難な場合には、記録保存のための発掘調査が行われます。

このたびいわき市考古資料館で開催される令和２年度第１回企画展「令和元年度発掘速報展」は、昨年度市内で行われた発掘調査の成果をいち早く公開・展示し、市民の皆様に最新のいわきの歴史を紹介します。

とじておきましょう。

展示遺跡紹介

◆梅ノ作瓦窯跡群（小川町下小川字梅ノ作）

石森山丘陵から南西に延びる台地の斜面部に立地します。台地には延喜式内社の二俣神社が鎮座し、台地西側を夏井川が流れます。過去の調査では、夏井廃寺跡や根岸官衙遺跡の軒丸瓦と同じ型で製造された軒丸瓦（複弁四葉蓮華文）が出土しています。

調査区全景（梅ノ作瓦窯跡群）

今回の調査は、二俣神社境内から北東側の斜面上に、２本のトレンチを設定して実施しました。

調査の結果、灰原（窯から出る灰や炭を捨てた堆積）を２か所検出し、窯本体が南東方向に存在する可能性があります。灰原には多量の須恵器（杯・高台付杯・壺・甕・円面硯）や窯体片が混入していました。遺跡の年代は、出土須恵器から７世紀末頃から８世紀前半と推察されます。

調査状況（梅ノ作瓦窯跡群）

調査状況（専称寺境域）

溝跡検出状況（燈籠原遺跡）

溝跡堆積状況（大谷遺跡）

雨落ち溝検出状況（平城跡）

◆専称寺境域（平山崎字梅福山）

夏井川に面して北側に張り出す尾根上から裾部にかけて立地します。本堂・庫裏・総門の３棟が国の重要文化財に指定されています。

調査の結果、明治時代頃の土坑１基、時期不明の小穴１個、江戸時代と推察される盛土・整地層が検出されました。遺物は17世紀中葉のかわらけ皿のほか、陶磁器・瓦・硯などが出土しています。

◆燈籠原遺跡（小名浜字富岡向）

藤原川下流域左岸に形成された浜堤上に立地します。

調査の結果、１号トレンチから溝跡４条、ピット２個、２号トレンチから東西に直線状に走る溝跡１条が検出されました。１号および２号トレンチの溝跡いずれからも出土遺物がないため、溝やピットが機能した時期は不明です。

◆大谷遺跡（平中平窪字大谷）

夏井川の開析によって形成された標高約30mの段丘上に立置します。

調査の結果、表土直下から掘り込まれた溝跡を検出しました。２号トレンチの溝跡は、常磐自動車道の開通に伴う際の発掘調査でも多数検出された「区画」のための溝跡の一部と推測されます。遺物は１号トレンチから現代の陶器と瓦が出土したのみでした。

◆平城跡・旧城跡遺跡（平字旧城跡）

試掘した場所はいわき駅北方の高台で、明治時代に「仮藩庁」が置かれた敷地内に相当します。

調査の結果、溝跡１条、土坑１基、ピット１個が検出され、幕末から明治時代の陶磁器や瓦が出土しました。３号トレンチから検出された溝跡は、軒先から落ちる雨水を処理する「雨落ち溝」と推測されます。

◆上神谷条里跡（平塩）

夏井川左岸の沖積地上に立地します。調査対象範囲はＪＲ常磐線の北側の水田地帯です。

調査の結果、現在の耕作面より0.7～1.2mほど掘り下げた位置から旧水田耕作土と思われる地層が確認されました。時期を判断する遺物が出土していないため、耕作土の年代は不明です。

土層堆積状況（上神谷条里跡）

◆江栗馬場遺跡（錦町江栗馬場）

江栗馬場遺跡は、鮫川下流域右岸に形成された微高地上に立地します。大高江栗条里跡を含む過去の調査では、弥生時代や古墳時代中期（５世紀前葉）から平安時代にかけての集落跡が確認されています。

カマド断裁状況（江栗馬場遺跡）

調査の結果、１号トレンチでは奈良時代から平安時代にかけての竪穴建物跡１棟と時期不明の溝跡１条、５号トレンチから楕円形の土坑１基が検出されました。竪穴建物跡の東壁側にはカマドが付設されていました。遺物は、竪穴建物跡内を主として、土師器（杯・甕）・須恵器（甕）が出土しました。

◆金山遺跡（常磐西郷町金山）

磐崎川と藤原川に挟まれた丘陵の段丘面に立地し、縄文時代から平安時代にかけての遺物散布地として周知されています。

トレンチ堀削状況（金山遺跡）

調査の結果、２～５号トレンチから土坑３基、溝跡５条、ピット12個などが発見されました。４・５号トレンチの溝は、幅１m前後でどれも南北に走り、とくに、４号トレンチの中国製青磁碗や、５号トレンチの溝から出土した中世の常滑系の甕などから、この付近に中世の屋敷跡の存在を想定することができます。また、３号トレンチの柱穴８個のうち、明らかに柱痕を残すものが４個があったこと、周辺にロクロ土師器も出土したことから、平安時代の掘立柱建物跡を構成していた可能性が指摘されます。

柱穴土層堆積状況（金山遺跡）

とじておきましょう。

調査区全景（餓鬼堂横穴群）

第23号横穴内部（餓鬼堂横穴群）

掘立柱建物跡完掘状況（泉町Ａ遺跡）

瓦質土器出土状況（御前田Ｂ遺跡）

◆餓鬼堂横穴群（平薄磯字北ノ作）

福島県の復旧治山事業に伴い、平成17年度から24年度にかけて発掘調査が行われました。今回刊行された報告書は、第13～25号横穴までの計13基を対象としています。

第23号横穴は家形の玄室（遺体を置いた部屋）を有し、天井と壁面が朱で彩色された装飾横穴です。内部からは、鈴杏葉・雲珠・辻金具などの馬具のほか、大刀や鉄鏃などの武器、工具の鉄斧、勾玉やガラス玉などの装身具といったさまざまな副葬品が出土しました。これらの副葬品は、６世紀後半から７世紀前半に位置づけられます。第23号横穴は13基の横穴の中では最も古い６世紀末と考えられ、すでにこの頃には本横穴群は墓域として機能していたことがわかります。

◆泉町Ａ遺跡，御前田Ａ・Ｂ遺跡

（泉町滝尻字泉町・御前田）

藤原川と釜戸川下流域に形成された浜堤上に立地します。これら３遺跡の調査は、「泉第三土地区画整理事業」に伴うもので、平成18年から31年までの間に約3,600㎡が調査されました。

調査の結果、平安時代の集落跡や江戸時代の土地区画溝、泉藩による農業用水路などが検出されました。遺物は土師器、須恵器、陶磁器、土製品、金属製品、石製品などが主に出土しています。

泉第三土地区画整理事業では、この３遺跡のほかに、折返Ａ遺跡・菅俣Ｂ遺跡・折返Ｂ遺跡・神力前Ｂ遺跡・泉町Ｃ遺跡も調査されています。これらの発掘調査の成果から、滝尻地区では、古墳時代から平安時代の集落が時期によって場所を変えながら形成されていったことが明らかとなりました。